

# 八尾歴史物語

五十五巻

河内名所図会をあるく⑦く聖徳太子ゆかりの地を訪ねて・教興寺編く

聖徳太子（厩戸皇子）ゆかりの市内の寺として、太子堂の大聖勝軍寺と別に、教興寺があります。

教興寺は、蘇我氏・聖徳太子と物部氏との戦いののち、太子に近い秦河勝が建立したと伝えられています。飛鳥時代の瓦が出土していますが、創建時の伽藍の場所は明らかではありません。

鎌倉時代には荒廃していたようで、文永6年（1269年）に奈良県の西大寺の僧・叡尊と、その弟子で教興寺長老の如縁房阿一によって復興が始まりました。叡尊は、太子信仰が高まったこの時代、太子ゆかりである教興寺の復興をめざしたのでしょう。教興寺は西大寺の末寺として中河内の律宗寺院の拠点になりました。南北朝時代には足利尊氏と直義兄弟により利生塔が建てられるなど、室町幕府にも重要視されていました。

教興寺南方の垣内共同墓地には、如縁房阿一の墓とも考えられている、令和2年度市指定文

化財になった鎌倉時代後期の五輪塔があります（7ページ参照）。阿一は、荒廃した教興寺を詠んだ和歌が『玉葉和歌集』に選ばれた人物として著名です。

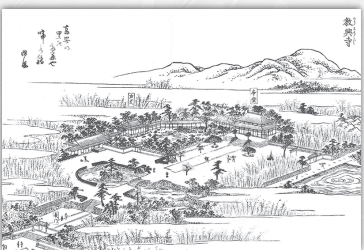
その後、戦国時代の三好氏と畠山氏が争った教興寺合戦の折りに畠山方の陣所になり、戦火の中、寺は焼失しました。

『河内名所図会』では、江戸時代に再興された伽藍が描かれています。現在も表門や方丈（現仮本堂）、鐘楼、池などが残っており、江戸時代の境内の姿を今に伝えています。

☆問合せ 観光・文化財課

☎ 924・8555

FAX 924・3995



▲河内名所図会で描かれている教興寺